

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：大場勝雄 幹事：桜井健太郎

情報委員長：米沢修一

1981・9月17日

第199号

“青少年非行問題の現状について”

金沢家庭裁判所

首席調査官 石川 三郎氏



少年非行は戦後第3のピークといわれ、しかも非行が低年齢化しており、昨年の統計によれば、全事件の64%が中学生、高校生でめられております。したがって少年非行対策というのは一面中学生高校生対策といえる訳です。

もっとも、これらの非行といっても万引や交通事件がその大部分をしめる訳ですが、呼び出された保護者の方で「万引ぐらい」「交通違反ぐらい」と軽く考えている向きが多いのです。しかし軽い非行でも早期に発見されて裁判所へ送られた少年は殆んど再犯がないのです。ところが一度目に発見されないと、二度三度と非行をくりかえし、非行が深化し、その処遇が困難になります。したがって少年非行は早期にその芽をつみとることが何よりも大切です。

今日少年の中に「学ばず、遊ばず、働かず」という風潮が漫延しており、又これらの少年を「落ちこぼれ」と称しています。しかし私にいわせると、これらの少年は「落ちこぼれ」ではなく、「落ちこぼし」でないかといいたいのです。即ち、親が少年に十分な家庭の教育的機能を果さなかったため、親が「落ちこぼし」たのでないかと思うのです。子供は親子関係で基礎的な性格が形成され、これが同時に社会生活における躰となり、更に教育を通じて社会生活の人間関係が相互に形成され、社会的存在としての人と人の結合が出来るわけです。

しかるに、最近の家庭における親子関係がくずれ、親がお互いの人格を認め合い尊重し合う態度を子供に示して行く躰が為されていないため、子供はそのような事を身につけていないまま成長してゆくので、学校へ行っても友人や教師との人間関係がわからず、社会へ出ても周囲の人との人間関係が理解出来ないのであります。

我々は少年を責める前に、少年に十分な家庭教育をしていたか、社会が彼等に十分な指導をしていたかを常に考える必要があると思います。

— 金沢北RC例会講話から — (文責 中村三次)

私 の 名 刺

春 田 義 正



御指示を頂きましたので、一通りの自己紹介をさせていただきます。

育ちは北海道熊育ちで、中学はかつての名大関名寄岩^{なよいかい}を生んだ名寄中学校を四年修了、医学の道に志を立てていましたが、運悪く受験当日関節リュウマチのため発熱し、止むなく四年生ではありましたが、志を変更し第二の友松円諦師（真理運動の提唱者）を夢みて大谷大学に進学したのでした。たまたま当時本学におられました寺本婉雅先生（明治大正時代に入蔵すること三度、清国政府顧問）に師事、チベット語学を専攻すると共に、大亜細亜主義の提唱者であり、且つ実践者でもある師の遠大なる経綸に魅せられ、やがてはチ

ベットにわたり師の後継者たらんとしたのですが、時たまたま大東亜戦争の勃発によって果されず止むなく東本願寺の留学生としてハルビン大学に於てロシア語を習得し、やがての日を期していたのです。ところが、このために卒業後は対ソヴィエト特務機関員となり、或はイスラム研究のため回教寺院に入り、イスラム教徒と共に生活するなど、当時としては危険多き波乱の時代をすごしました。今にして思うと現在のような世界状況になることであれば、もっと十分にイスラムの研究をしておくのだったと後悔している次第です。

多くの友が戦死した中、悪運強く命をながらえて、終戦後は松尾宝作さん方と共に金沢中央公民館創設に時を忘れたことでした。そして翌々年には全国にさきがけて金沢中央公民館が都市公民館のモデルとして文部大臣表彰を受けたことも今は思い出です。

昭和31年東本願寺に召され、宗門に御奉公することになりました。総務部長、組織部長、又各地方教区の別院輪番、教務所長をつとめて、昨年7月満24年間を区切りとして帰坊致した次第です。

以上のようなわけで、近年は金沢には殆んど留守がちでしたから、知人、友人もごく少いのです。今回御推薦の栄を賜り、当ロータリーの仲間にして頂いたこと有難いと喜んでおります。

金沢の生んだ大先達に高光大船という傑僧がおられます。（美大教授高光一也さんの御親父）あるとき一人の青年が「先生、仏法（ブッポウ）とは一口でいうと何ですか」と尋ねたところ、先生は即座に「仏法とは鉄砲の反対じゃ」と答えられたという話を聞いております。鉄砲は他人を殺すものだが、仏法は我が身（自我）を殺すものだとの意と申します。しぶとい自分が仲々殺せずに困っている私ですが、此の度は御迷惑でもせいぜい皆様にその弾丸となって頂いて自分を殺すことに一生懸命になりたいと思います。

なお、ちなみに寺にはいつもは私と愚妻二人しか居住しておりません。長女は京都へ嫁し、長男はまだ大学院に在籍しておりますが、金沢経済大学の講師もかねておりますので、京都半分寺半分です。少人数暮しで大変さみしいので何卒皆様の御光来をお待ちしております。

何しろノータリーズですから、家族もろとも御指導の程、伏してお願い申し上げます。

歴代、国際ロータリー会長の指針

1973～74年度 ウィリアムG.カーター（英国）

今こそ行動のとき。

修練委員会

情報抄録

青少年活動週間を遵奉しよう

9月15日を含む1週間、世界中のロータリー・クラブが青少年活動週間を実施することになっている。これは、ロータリーが主催するすべての青少年プログラム——インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ハンディキャンプ、RYLA、およびROVE、さらにまだ非公式ではあるが人気の高まりつつあるプログラム——ROTEX、RYPEN、RITSEなどに焦点をあてる特別の機会である。

この週間の実施を助けるために R.I.理事会は今まで私たちが地域社会の青年のためにやってきたことを公表したり、クラブ会報に「各ロータリアンは青少年の模範」のスローガンを強調するように喚起している。青少年への奉仕は将来への投資である。年間を通して、私たちは若者たちが、国際理解と平和を熱望する、円熟し

た責任感の強い、独創力に富んだ人間になるよう、激励しなければならない。



私たちの青少年を正しい方向に導いてゆこう。

8月例会出席状況

出席率 99.57%

会員名	月日	8/6	8/13	8/20	8/27	8月	会員名	月日	8/6	8/13	8/20	8/27	8月
浅田豊久	M	○	○	○	○	○	落合義彦	○	○	M	○	○	○
浅野弘	M	○	○	○	M	○	大場村精	○	○	○	○	○	○
出島敬	M	○	M	○	○	○	岡田林太郎	○	○	○	○	○	○
二木正樹	○	○	○	○	○	○	桜井健太郎	○	○	○	○	○	○
春田義正	○	○	○	M	M	○	沢田哲夫	M	○	○	○	○	○
長谷川塑人	M	○	○	M	○	○	柴田三郎	○	M	○	○	○	○
橋場幸一	M	○	○	○	○	○	清下水村	○	M	M	M	○	○
平尾江他美夫人	○	○	○	○	○	○	下塩村喜代次	○	○	○	○	○	○
市川則健	○	M	○	○	○	○	塩鈴木厚	○	○	○	○	○	○
飯野乙干	M	○	○	○	○	○	庄高田中	○	○	M	M	○	○
池島丸貞	○	○	○	M	○	○	高田中山	○	○	○	○	○	○
石磯上	○	○	○	○	○	○	田中靖松	○	○	M	M	M	○
笠間正夫	M	○	○	○	○	○	笠間恒次	○	M	○	○	○	○
笠間光仁	○	○	○	○	○	○	木島隆吉	○	出	○	○	○	○
木下林隆	○	○	○	○	○	○	小林尚	○	○	○	○	○	○
小間井宏	○	○	○	○	○	○	小間民男	○	○	○	○	○	○
越野守善	○	○	○	○	○	○	小杉善	○	○	○	M	M	○
小增江	○	○	○	○	○	○	小杉善	○	○	○	○	○	○
本岡三千郎	M	○	○	M	M	○	增江泰	○	○	○	○	○	○
宗田市太郎	○	○	○	○	M	○	本岡三	○	○	○	○	○	○
中村三	○	○	○	○	○	○	中村省	○	○	○	○	○	○
中村西	○	○	○	○	○	○	中村西	○	○	○	○	○	○

(病欠)

×

